第33回 寄居町交通安全ポスター・作文コンクール

悲惨な交通事故をなくし、暮らしやすい社会を築くため、子どもたちが真剣に考えました。いずれの作品も、交通安全に対する願いが込められています。 ＜敬称略＞

	ポスターの部			作文の部		
埼玉県知事賞	男衾小	4年	權田　隼一	寄居小	6年	松本　大輝
寄居警察署長賞	桜沢小	6年	根岸　智至	桜沢小	5年	加藤　航瑛
寄居町長賞	男衾小	5年	川村　吏玖	男衾小	6年	馬場　夏希
寄居町議会議長賞	用土小	4年	清水　心大	男衾小	6年	新堀　由羅
寄居町教育委員会教育長賞	桜沢小	4年	徐　咲穂	男衾小	5年	村田　篤紀
寄居町交通安全母の会会長賞	用土小	5年	杉田　千春	男衾小	4年	大村あかり
入　選	寄居小	6年	福島　琴音	寄居小	6年	鹿島　萌生
	寄居小	6年	松村　康平	寄居小	6年	加藤　豪
	桜沢小	6年	池田　陽菜	寄居小	6年	増田かのん
	男衾小	6年	大澤　結菜	男衾小	6年	櫻井　遥香
	男衾小	6年	佐藤　凪紗	男衾小	6年	髙山　美穂
	寄居小	5年	赤坂　理紗	寄居小	5年	飯野　陽太
	寄居小	5年	吉田　健司	桜沢小	5年	福島　雄大
	桜沢小	5年	柴﨑　蒼	男衾小	5年	小林　優大
	男衾小	5年	一柳　凜花	男衾小	5年	杉田　陽和
	男衾小	5年	山木　大聖	男衾小	5年	根岸龍之介
	寄居小	4年	田貝　友佑	寄居小	4年	市川　十有
	寄居小	4年	塚越　実歩	寄居小	4年	関口　遥香
	男衾小	4年	新井　舞花	桜沢小	4年	鶴岡　舞子
	男衾小	4年	押田　翠花	男衾小	4年	五十嵐紗月
	男衾小	4年	熊倉　蓮	男衾小	4年	松本　愛澄

埼玉県知事賞

權田　隼一（男衾小4年）

埼玉県知事賞

「大切な命」

松本　大輝（寄居小6年）

「ただいま。」いつもより小さい声でお父さんが帰ってきた。様子がおかしい。車で出かけたのに歩いて帰ってきたのだ。今日は日曜日。おばあちゃんが買い物をするために、お父さんはおばあちゃんを車に乗せてスーパーへ出かけた。買い物からもどりおばあちゃん家の駐車場に車を止めると、とつ然車からけむりが出たという。危険だとすぐ車を止め、急いでお父さんとおばあちゃんは車の外へ出た。やがて、車のけむりは消えた。お父さんは、もうこの車は故しょうで乗ることができないなと思った。この車はよく調子が悪いときがあり、その度に修理に出した。直ったから安心と油断したら、またのトラブルであった。新車で買ってから五年半乗った。もう少し活やくしてほしかった。でも、五年半という短い間であったが、この車に乗ってたくさんの思い出を作ることができた。数多くの旅行へ連れていってくれたこと、調子の悪い時に病院へ連れていってくれたこと、買い物の荷物をいっぱい運んでくれたことなど、大活やくしてくれてありがとう。車からけむりが出て、おばあちゃんとお父さんは大変な目にあったけれど、道路の真ん中で起きたら、もっとおそろしかったと思う。事故が起き、人間にひ害が出たらと考えると本当におそろしい。おばあちゃんとお父さんがけがもなく無事でいるすがたを見て、心からほっとした。昨年六月に旅立ったおじいちゃんが見守ってくれているからだと感じた。

この出来事からぼくは車や自転車などの乗り物は、安全かどうか乗る前によく確にんしたり、少しでも調子が悪かったら、乗らずに点検や修理をすぐにした方がいい事を学んだ。人間にもこのことがあてはまる。先日、持病でかかさず飲まなければいけない薬を飲み忘れて発作になり、車が急発進して建物や人につっこみ、ぎせい者が出てしまうというニュースをテレビで観た。薬を飲み忘れずきちんと飲んでいたら、悲さんな事故は起こらなかったかもしれない。ぼくたちは、一人ひとりが無理な行動をせず、油断せず、きちんと規則やきまりを守ろうと努力すれば、人に迷わくをかけなくなると思う。交通安全においても、定められたルールを一人ひとりがしっかり守ることによって、事故も大はばに減少するのではないだろうか。一人ひとりの大切な命を守るために、ぼくたちは常に交通安全を意識した行動をとることが必要なのである。

ぼくは、通学班の班長として、交通安全に気をつけながら、班員の人たちと無事に登校できるよう努めたい。命を守るヘルメットのベルトをしっかりしめ、かさで視界の悪い雨の日はよりしんちょうになりたい。

今朝も手をふって見送ってくれるお父さん、お母さん、通学路で見守ってくださる地域の方々へ、元気にあいさつをしたい。感謝の気持ちをこめて。

各分野に貢献された方を県が表彰

シラコバト賞

保泉　竑 さん

シラコバト賞は、日ごろから身近なところで住みよい地域社会実現のために積極的な実践活動を地道に続けている個人や団体に贈られる賞です。このたびの受賞は「住みよいふるさとをつくる活動」が評価されたことによるものです。

保泉さんは、鉢形城周辺の清掃活動を防犯見回り活動と兼ねて、40年前から自主的に行っているほか、小学生の登下校時の見守り、声かけ活動も行うなど、住みよい地域づくりに多大なる貢献をし、地域の模範的存在として厚い信頼を得ています。

知事表彰 地方自治功労

矢那瀬　照男 さん

矢那瀬照男さん（用土6）は、昭和39年4月に寄居町吏員として奉職され、平成15年4月に退職されるまでの39年間、教育委員会総務課長、総務課長、収入役を歴任し、地方自治の振興発展に尽力されました。

この間、豊富な行政経験と高い識見から適切な職員管理を行い、効率的な行財政運営に尽力するとともに、会計業務の合理化、迅速化に大きく貢献されました。また、常に社会情勢や町政の動向注意を払い、明朗かつ健全な財政運営に努められました。

矢那瀬さんは「今回の表彰は、たいへん光栄であります。この表彰に恥じぬように、今後も精進をしていきたいと思います。」と話してくれました。

中学生の「税についての作文」

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会では、「税についての作文」を募集し、11月11日から17日までの「税を考える週間」にあわせて優れた作品の表彰をしています。11月16日に熊谷文化創造館「さくらめいと」で表彰式が行われました。

ここでは、町からの入賞者をご紹介します。 ＜敬称略＞

埼玉県納税貯蓄組合連合会　優秀賞

「大切な税金」　杉田　生璃（男衾中1年）

「税について」　河合　愛奈（男衾中2年）

寄居町長賞

「税がもたらす幸せとこれからの未来」　吉川　慧（寄居中3年）

寄居町教育委員会教育長賞

「未来への投資」　新井　優奈（男衾中3年）

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会　優秀賞

「お互いの気持ちになって」　内田　侑希（寄居中3年）

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会　佳作

「税金の使い方がおかしい」　秋山　愛詠（城南中3年）

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

「豊かで、そして誇れる国へ」

若狭　里奈（寄居中3年）

ついこの間から、百円ショップで買い物をすると、百八円かかるようになった。あまり実感がわかなかった消費税増税を実際に感じたときだった。母や祖母は、「八％だって。いやになっちゃうよ。」と文句を言っていた。私はなぜ消費税というものが必要なのか疑問を持った。なぜ八％に引き上げたのか。父は「昔は税金なんてほとんどかからなかったんだよ。」と言っていた。なぜ税金が必要になってきているのか。

社会の時間、高度経済成長について勉強した。戦後、日本はおどろくような早さで進化したという。東京オリンピックに向けて、道路をきれいに修理したり、施設を造ったり、いろいろな工夫がほどこされたらしい。その成長を支えたのが、国民が納めている税であった。国をよくするために税は使われるのである。あの東京オリンピックは、日本国民の税で成り立ち、みごと成功したのである。これはとても誇らしいことだろう。日本国民が納めた税で施設が成り立ち、世界レベルの選手が集まって競い合う。税金が役に立っていると実感できることだ。とても嬉しい。二〇二〇年に向けて、日本は五十年前と同じように、新しい施設を造ったり、道路の標識を外国人にもわかるように変えたりしている。また、国立競技場も新しく建てようと話が進んでいる。これだけのことをするには、たくさんのお金と、たくさんの人の手が必要だ。日頃行っていることに、特別なことが加わる。税金は、今必要とされ、今使われているのだ。だから税金は大切なものであって、必要なものなのだ。

それなのに、税金を納めない国民がいる。自分たちは税金がなかったら生活していけないはずだ。だから、もっと税金の大切さやありがたさをわかってほしい。さらに良い国にするために必要なことをわかってほしい。

私も、私の家族も、税金についてしっかり理解できていない部分や、知らないことがたくさんある。その部分をなくすことこそより良い国になるための第一歩ではないだろうか。全ての国民が税金について理解し、少しでも興味のあるものになってほしい。五年後、十年後、日本はどのような国になっているのだろうか。今よりも豊かで、世界に誇れる国になっていてほしい。

私が出したあの八円は、どこに使われているだろう？